



2025. Mar

Vol. 35

今回は/
卒業生
特集

JiN-SHA

YELL

ジンシャ
エール

明星大学 人文学部人間社会学科
ニュースレター

DEPARTMENT OF SOCIOLOGY AND HUMAN WELFARE

人間社会学科、略して「ジンシャ」。
ジンシャに関わるすべての人にエール(声援)を送ります!



最後のゼミ後

佐久間 柊 さん (鶴沢ゼミ)

人のつながりの大切さを 知った4年間

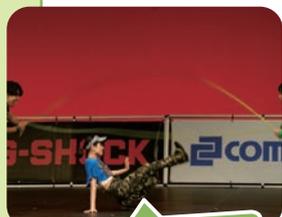
この4年間の大学生活を通して、様々な面で自分自身が大きく成長することができました。特に、人との関わりを感じることができたと思っています。

小2で始めたダブルダッチを大学でも続け、サークルでは副代表を務めさせていただきました。楽しいことばかりでなく、辛いことの方が多かったように思います。先輩や後輩、同期、コーチとの関係で悩んだこともありましたが、その時にも多くの人に支えられました。

社会調査実習ではコミュニティ・ビジネスの「だるチャンプロデュース」に携わりました。調布という地域とのつながり、だるチャンプロデュースに関わる方々とのつながりを知り、自分だけのオリジナル作品が生まれることの素晴らしさを肌で感じることができました。就活や卒論でも、人とのつながりが大事だと改めて気付かされました。卒論では、幸せに過ごしたいという思いから幸福に関する一考察として執筆しました。幸せのためには、健康でいて、人とのつながりがあることが最も大切なので、それを意識して過ごしていきたいです。

私の4年間で少しでも関わってくださった方々のおかげで、自分が成長できていると感じています。社会人はもっと大変なことがあると思いますが、この4年間の経験を活かし、さらに多くの経験をし、成長していきたいです。

ちょう布だるま



ダブルダッチの大会

大和田 駿 さん (熊本ゼミ)

自分の将来に つながったゼミ活動

2年次のゼミの活動で「都民による事業提案制度」に参加しました。この活動は、東京都に実施してもらいたい事業を私たちが考え、提案するものです。考えた事業が既に行われていたり、提案事業として形にするのが難しかったりと、今までにない新たな事業案を苦労しながら作成したことが記憶に強く残っています。

最終的に提案した事業は、東京都が開発した「東京都防災アプリ」に、子どもやお年寄り、外国人にも使いやすい機能を追加する「誰もが使いやすい東京都防災アプリ事業」です。この提案が都民に

誰もが使いやすいアプリにリニューアル
東京都防災アプリ

実装されました!

よる投票の結果、3番目に多い票を獲得し、1億7600万円の予算で事業化されることになりました。なお事業化されたのは684件の応募のうち7つだけでした。

東京都庁で開催された表彰式で、小池都知事から賞状と副賞を受け取った際は、もちろん緊張しましたが、同時に誇らしく、嬉しい気持ちになったことを覚えています。

そして、ゼミのみんなと頑張った事業化を実現した経験は、就職活動のエントリーシートや面接でも大いに活用することができました。私の志望していた企業から内定をいただくことができたのは、この活動が大きかったと思います。

小池都知事とともに



下田 彩水 さん (竹峰ゼミ)

教師になる夢を叶えて—— 環境問題と向き合いながら

3年春休み
マーシャル諸島の
子どもたちとともに



高校生のころ「学校教員という将来の夢を叶えたい」と「興味がある環境問題を深めたい」という2つの進路が交錯していました。どちらも専門的な学部学科が存在しますが、私が選択したのは、そのどちらの道も進むことができる人間社会学科でした。

人間社会学科に入学し、環境活動家たちを訪ねて、気候危機に対して私たちがこれからどのように向き合っていくべきなのか、一人一人の活動がもつ意味と可能性を深めてきました。フィールドワークを進めるなかで人生初の海外にも挑戦し、マーシャル諸島共和国では海面上昇の危機に直面する現地で暮らす人々から多くのことを学ぶことができました。

3年春休み マーシャル諸島
環境コース団体Jo-jikunメンバー



広島ゼミ合宿を
終えて

学科で学ぶ中で、自分では気付けなかった多くの社会問題と出会いました。問題意識をもちながら毎日を過ごす竹峰ゼミの仲間と交流するなかで、人格の基盤を創っていく小学校の教員になりたいと考え始めました。

いまの学校は「持続可能な社会の担い手の育成」が指導要領でうたわれています。社会学は今の子どもたちに触れてほしいことがたくさん詰まっています。教育実習の時、学科の授業「アジア社会論」で学んだバナナの話も題材に授業をしましたが、楽しんで話を聞いてくれる姿を見て、子どもの吸収力は無限大だと感じました。4月から夢が叶い、小学校教員になりますが、人社の学びを教育現場で役立てていきたいと考えています。

卒論追い込み
エコストアパパラギの
皆さんと



平良 草拓 さん (天野ゼミ)

4年間で振り返って

私の大学4年間は素晴らしい友人や先生方に恵まれ、とても充実した時間になりました。入学当初、コロナの影響ですべての授業がリモートになり、思い描いていた大学生活とは少し違うスタートになりましたが、対面授業が再開される頃には授業、部活、アルバイトと忙しくも楽しい時間を過ごしました。

男子バスケットボール部の仲間と



部活動では男子バスケットボール部に所属し、全国から集まった部員たちと切磋琢磨しながら成長することが出来ました。2年次に休部してしまいましたが、高校までの部活とは違う練習環境や大学リーグならではの緊張感などを経験できたことは、私にとってかけがえのない思い出になりました。

ゼミでは、天野ゼミに所属していました。天野ゼミは比較的自由な雰囲気、DXやプログラミングなど自分の興味ある分野についてとことん勉強することができました。天野先生は、学生に対して親身になって教えてくださり、「〇〇にチャレンジしてみない?」「こういうイベントがあるよ」など様々なアドバイスをしてくださりました。そのような環境で勉強しているうちに、自分のやりたいことや将来の理想像がはっきりしていき、就活では第一志望の企業のICT部門(DX推進などに携わる部門)から内定を頂くことが出来ました。

4月から社会人になりますが、この4年間で得た様々な経験や知識を活かし、より良い社会人になれるよう努力し続けていきたいです。

ゼミ活動報告

2024年度

ワークライフバランス調査

私たちは、有限会社アイگران（以下アイگران）と、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社（以下あいおい）に訪問し、ワークライフバランスについてのインタビューを行いました。またあいおいでは、現役のポッチャ日本代表である宮原選手にご同席いただき、ポッチャの体験会も行いました。

アイگرانは安心・安全・健康をモットーに、体に優しいパンを製造・販売している企業です。女性の従業員が多く活躍されているというのが特徴で、女性管理職の割合が3割を超えています。また現在は、より少ない人数で回ることができるモデル店舗の運営に、力を入れているそうです。



アイگرانのパン工場にて



あいおい八王子支社のフィールドワーク

UZAWA
鵜沢ゼミ

あいおいはあいムーブという独自の制度をはじめ、ワークライフバランスに関する制度が充実しています。また、ダイバーシティ推進を掲げており、女性のキャリアアップの機会が多く設けられているというのも大きな特徴の一つです。

ポッチャは一見シンプルな競技ですが、細かな技術や戦略性が求められるスポーツです。全員が初体験で、狙った場所にボールを正確に投げるだけでも一苦労でした。

今回二つの企業にインタビューを行ったことで、ワークライフバランスに関する取り組みは、企業によって大きく異なるということが分かりました。

3年
高梨幸太 さん

ポッチャ体験！

前期活動

前期の子ども家庭支援センター「みらいく」の見学では、虐待とその対策に向けての日野市の取り組みについて学びました。「みらいく」には遊具で遊べる部屋や飲食のできる交流スペース、自習スペースがあり、来た人が安心して過ごせる空間になっていました。また、子どもなんでも相談や啓発動画の投稿等、虐待防止に向けての取り組みも行われていました。

事前学習の際、2020年に改正法が施行され体罰の禁止が明記されるまで、親からの体罰が黙認状態であったことを知り、衝撃を受けました。日野市での児童虐待受理事数は年々増加しています。職員さんのお話を聞き、虐待問題に関心を持ち、虐待が疑わしい際に通告することが、子どもたちの支援に繋がることを実感できました。



後期活動

後期は「よみうりランド」でグループに分かれて家族観察を行いました。予測を立てて観察を行ったのですが、実際に行ってみると想像とは違う結果になりました。例えば、「会話を聞いて、家族関係を観察する」という予定でしたが、アトラクションの音で会話が聞き取れない、一つの家族を追いかけられないといった現地に行かないと分からないアクシデントがありました。一方で、親子の身なりの類似性や両親の役割分担を見ることができました。アンケートやインタビューは実施しなかったため、想像より難しかったのですが、考察する力を養えたと思います。アトラクションに並びながら家族の行動や言動を見る等、普段ではしない遊園地の楽しみ方ができたので、思い出に残るゼミ活動になりました。

Hana
gata
花形ゼミ

長島幸生 さん 能澤彩実 さん 比留間悠太 さん 山本夏輝 さん

2年

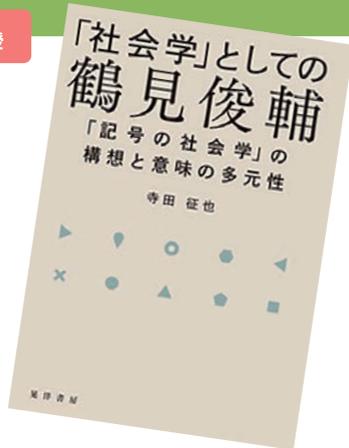
教員の書籍紹介



寺田 征也教授

「記号の社会学」の構想と意味の多元性
「社会学」としての鶴見俊輔

寺田 征也著 2024年 晃洋書房



鶴見俊輔(1922-2015)の思想を「記号の社会学」として読み込む仕事を続けてきましたが、その成果を2024年2月に単著として刊行することができました。

鶴見は思想家・哲学者であり、また種々の社会運動(ベ平連など)に関わる活動家であり、漫画や漫才、小説を論じる批評家でした。その多岐にわたる仕事はどこか社会学的な雰囲気をもっており、そのため多くの社会学者に言及されてきていますが、一方で、「鶴見の仕事はいかに社会学的であるのか？」が問われなまま語られてもいます。

本書はかれの仕事の一端を、「記号の意味の『共通性』と『個性性』という視点から人びとの日常的な活動や文化物の受容過程を論じたものとして再構成しました。そしてその発想は「記号の社会学」として集約されるものと結論づけました。

今年(2025年)は鶴見没後10年となります。鶴見がこれからも面白く読み継がれるように、そして本書がその一助になることを期待しています。(寺田)

「フィールドワークへの招待」合同発表会

人間社会学科では1年生から4年生まで少人数ゼミがあることが特色の一つですが、1年生の後期のゼミではフィールドワークの基礎を学び、その集大成として最後に全てのゼミが集まり合同の発表会をしています。



プリズンツアーと刑務所特製パンに朝から大行列!



地元の方よりくらやみ祭りの歴史と地域での役割についてお話を伺いました

今年度は、6ゼミの中でも班ごとに分かれ研究を行いました。フィールドワーク先は、「yottette(八王子市交流スペース)」、「府中刑務所(文化祭)」、「大國魂神社」、「林芙美子記念館」、「第五福竜丸展示館」、「マヨテラス(キュービー株式会社見学施設)」、「浅川清流環境組合可燃ごみ処理施設」、等々...多岐にわたりました。どのゼミの発表も班ごとに協力したことが伝わってきて、力がこもった興味深いものとなりました。1年生のみなさん、フィールドワークの体験を活かして、ますます学びを深めていきましょう!

最後に、フィールドワークを受け入れてくださった方々に心より感謝申し上げます。(荒井)

